

目次

読書欲が長生きのもと (長く図書館を利用しておられるご夫婦インタビュー) …… P2
図書館活用術 …… P2
私が大切にしていることば …… P2
図書館司書のおすすめ『カスタフィオーレ夫人の宝石』『タンタンの冒険旅行』シリーズ …… P3
図書館からのお知らせ …… P4

歴史を異なる角度から

今年のNHKの大河ドラマは、「真田丸」。

これを機会に「大坂夏の陣」の諸戦を飾る「榎井合戦」関連本を読み漁った。元和元年（一六一五）四月二十九日、大坂方大野治房軍は貝塚に留まったまま、塙団右衛門と岡部大学の隊が、先陣を争って榎井に陣を張る徳川方浅野長晟軍に突入し、塙や淡輪六郎兵衛ら十二の首を取られた。岡部は潰走。浅野本隊の留守を狙って、紀州領内各地で一揆の兆しあり。浅野軍はその日のうちに紀州へ戻り、一揆鎮圧後再出兵し、五月七日の大坂城攻防戦に滑り込みセーフ。浅野軍の一方的勝利として世に語られているが、果たしてそうだろうか。散発的な戦闘であったとしても、数時間も続いた戦いで浅野軍の死者数が記されず、戦死者数を0扱いするのは不可解千万。大坂の陣の勝者側に都合の悪いことは書き残さなかった一例であろう。勝者だけの歴史そのものである。一方の当事者である大野治房はじめ大坂方の諸将も、この合戦を敗戦と認めたとは言いきれないだろう。さらに一步譲って、通説通り戦術的には浅野方の完勝であったとしても、戦略的には引き分け乃至は大坂方の勝利と判定してもよい。浅野軍五千の大軍を約一週間戦場離脱させ、兵力0にしたのだから。もっとも、徳川対豊臣の戦いの帰趨には毫も影響しなかったろうが。

塙らの討死は、決して大死ではなく、もっと称えて然るべきである。

話変わって江戸末期、文久三年（一八六三）紀泉国境における境橋の仇討。誰が言い出したのか、「日本最後の」という誇大な語が冠せられ、却って正当な評価を落としている。しかし、これは、大概の敵討ちの本に載っている超有名事件である。勝海舟を師と仰ぐ神戸海軍操練所の面々が、討手の土佐人広井警之助と同郷のよしみもあって、助太刀に駆けつけた。別件逮捕で入牢中の棚橋三郎が境橋で追放されるや、一対一で切り結び、見事打ち取った。あの坂本龍馬は、当日折悪しく、勝の命で越前松平春嶽の元へ金の工面に出かけていたが、後日、警之助を取り調べ中の堺奉行所へ、彼の身柄引き受けに来ているようである。

見事本懐を遂げた討手だけでなく、討たれる者の立場にも光を当てる必要を感じる。正當なお裁きの結果、国払いという厳罰によって家庭を破壊され、塗炭の苦しみを味わっているわが身を、世間はよってたかってこの世から抹殺しようとしている。しかし三郎の方にも互いに愛する家族が待っているのである。討った者討たれた者、それぞれの思いをくんで、物語の紙芝居を作ってみると、示唆に富んだものができ上るであろう。

仲谷 栄一

読書欲が長生きのもと

阪南市立図書館の開館当初より、ずっと図書館を利用してくださっているご夫婦を紹介します。

私達は96才と88才の高齢夫婦です。足腰が弱っても視力の方は保てているので、図書館で借りる本が唯一の楽しみです。活字にふれることが頭の体操にもつながっているのかもしれないと、大阪府立図書館の移動巡回バスの頃からの読書の習慣をこの年令まで続けられるしあわせをかみしめながら、充実した図書館が近くにあればこそと感謝しつつ、読みたい本のリクエストをお願いしています。読書欲が長生きのもと…とも云えそうです。

鈴木 徳成・照子

*「大阪府立図書館の移動巡回バス」とは、図書館未設置の市町村等を巡回していた府立図書館の自動車文庫です。阪南市には、昭和26年の開始から平成2年3月の運行終了の最終日まで約40年来ていました。

BONBON号を覚えている方いらっしゃるでしょうか？

(参考資料『さようなら自動車文庫』)



図書館活用術

もし、本が壊れてしまったら・・・

ページが外れてしまった、ページを破ってしまったという場合は、そのままの状態
で図書館のカウンターに申し出ください。ばらばらになっていなければ、図書館で修
理いたします。

セロハンテープで修理したいですが・・・

破れたページは貼り合わせてから返したいという方は多いのですが、本の修理は図
書館におまかせください！特にセロハンテープは粘着部分の劣化が早く、変色してシミ
になってしまうことがあるため、本の修理に向きません。図書館では専用のテープ
で修理しています。

修理できないものは、ありますか？

原形が分からないほど破損したものや、ページが紛失したもののほかに、水にぬれて
しわしわになってしまったり、食べこぼしなどシミになったものは、残念ながら図書
館では修理することはできません。

ひどい状態だと他の方に貸出することができなくなるので、弁償をお願いすること
になってしまいます。本は大切に取扱ってください。



私が大切にしていることば

昨年からの人生で最も辛いこの一年を支えてくれたのは多くの友人、親類の人達だった。

「真の友人は宝」だと思ふ。心のこもった言葉がけがこれほど心に響いた年はなかった。もう一つ「依心（えしん）より依所（えしょ）」これは夫が私に遺してくれた言葉。加藤館長がこれの出典を白洲正子著の『道』の中で見つけて下さった。比叡山の最澄上人の歌が出典で、

無動寺の阿闍梨の解釈では、“人と人 心と心”の繋がりばかりに目が行きがちな世の中だが、今後さらに大きな事を成し遂げようと思った時、何かに集中できる場所や心落ちつく環境を探すのが大事“とのこと。絆は大切にしたい。そして自分にとっての依所とは？ 義弟は“境地”と捉えていた。私の依所探しはこれからだ。

筒井 惇美

『カスタフィオーレ夫人の宝石』『タンタンの冒険』シリーズ

エルジェ / 著

福音館書店

えほん EG/E

2011年、スピルバーグ監督「タンタンの冒険」の公開に合わせ、福音館書店がエルジェ作「タンタンの冒険旅行」シリーズ一冊ずつにつきブックレビューを募り、期限までに100本以上の文章が寄せられました。採用された投稿者にはタンタンのクリアファイルがもらえ、そのうちの1名には大賞としてタンタンの腕時計が贈られるのですが、私の投稿した『タンタンチベットをゆく』【絆18号(2014年2月発行)に掲載】が大賞をいただきました。ちなみに「なまくらトック」がペンネームです。今回はシリーズの中から9巻目『カスタフィオーレ夫人の宝石』を紹介します。

エルジェは資料に基づき画面を構成したそうですが、絵だけじゃなく、人物造詣という領域もそうだったのでは?!と思います。というのも、このカスタフィオーレ夫人そっくりの人が実際身近に居るのです!

歌がうまくて地元のカラオケ大会では金賞を取ってくるし、宝石が好きで、悪気がなくて、おまけにちよっぴり「ぶくよかさん」。こういう特徴をみな備えたタイプの



図書館司書のあすめ

人って、きつと存在するんですね、国境を越えて。

そういう目でみれば、ほんの四コマくらいしか出ていないチヨイ役でも妙に存在感のある人物に出くわしますよね。『タンタンチベットをゆく』でハドック船長から文句を言われた時それを上回る勢いで言い返した荷担ぎの男とか、輪ゴムをもてあそんで痛い目に遭う空港マネージャーとか。あれはみんなモデルが居るんじゃないかし

ら。

ところで、話は「絵」に戻りますが、エルジェ描く世界の人々の顔って、その「民族」の核心をおそらく巧みにつかんでいて、ほんとうに感心してしまいます。写真が「現実」を映すけど、筆は「現実」を捉えることが出来る…。

といいつつ、出てくるのは多種多様な人物なのに、その「手」はみんな、指がほっそりとしていて長い!これは、エルジェの手がそ

うだったから…?

話は作品に戻りますが、今回の登場人物でキラリと光るスペシャルメンバーは、電話機のそばで「カタコト(?)」をしゃべり徹底的にハドック船長を翻弄するあのオウムくん(?!にキマリ! なんといいも「ワタシはただのトリでございませよ」ってな悪意も何もないアホそうな表情をたたえつつ、いろいろやらかしてくるじゃないですか。なんて悪い奴う。

ところで映画タンタン、見てきました。カスタフィオーレ夫人が出てきたので「やったっ!」宝石のうたが聞けるぞ!と思ったのに違ったので、大がっかりでした。

ちなみに映画パンフを買う代わりに宝島社のムック「ようこそ!タンタンの世界へ」を買ってしまいました。バッグを買う人種じゃないつもりでしたが、付録の、物陰から顔を出したこつちをのぞいているタンタンと、しかも眉毛のスノーウィーのトートバッグを、置き去りにできず…。

ムック本体もなるほどタンタンの世界を伝えようとかがんばっていたけど要らんページもあったぞ!、そう悪い買い物ではなかったかなと総括しています。

永橋 ひかり



図書館フレンズ活動報告

2015年度の活動日数の集計ができました。配架に1397名、書庫入れ作業に430名、修理・清拭・装備に532名、館内装飾に40名、リサイクルに160名、広報に48名、生け花等環境整備に197名ものご参加をいただき、**年間の延べ参加人数が2804名**にもなりました。登録者は80名ですので、お1人平均35日来てくださったことになります。

また、修理冊数は3691冊、清拭冊数が4075冊とたくさんの方が本が蘇り、768冊の本が装備されて図書館の資料に加えられました。

「阪南市の自然」写真展

テーマ「みつけよう小さいのち撮ってみよう豊かな自然」

平成29年1月27日(金)～31日(火) サラダホール 2階展示室

阪南市で見られる生き物や植物、風景などの写真を募集します。応募された作品のうち、数点に今森先生のコメントがいただける予定です。ふるってご応募ください。募集要項は図書館ホームページに掲載しています。

上記期間終了後は図書館内で2月末まで展示予定です。

自然写真家・今森光彦講演会 (スライド&トーク)

平成29年1月29日(日)午後 サラダホール 大ホール

※入場方法等は後日お知らせします。

プロフィール

写真家。ペーパーカットアーティスト。1954年滋賀県生まれ。故郷の琵琶湖周辺の里山を舞台に自然や人の暮らしを撮り続けている。1992年に発表した写真集『里山物語』は、里山が注目を集めるきっかけになった。全国各地の里山を舞台にしたNHK「ニッポンの里山」シリーズ他の制作に協力・出演多数。著書に『世界昆虫記』(福音館書店)『里山の少年』『昆虫4億年の旅』などがある。

※写真展・講演会は全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を活用して行なわれる「環境保全促進助成事業」です。

